

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-32794

(P2001-32794A)

(43)公開日 平成13年2月6日(2001.2.6)

(51)Int.Cl.⁷

F 0 4 D 29/30
29/28

識別記号

F I

F 0 4 D 29/30
29/28

ターミナル*(参考)

F 3 H 0 3 3
P

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平11-206160

(22)出願日 平成11年7月21日(1999.7.21)

(71)出願人 500309126

株式会社ゼクセルヴァレオクライメートコントロール

埼玉県大里郡江南町大字千代字東原39番地

(72)発明者 藤田 泰範

埼玉県大里郡江南町大字千代字東原39番地

株式会社ゼクセル江南工場内

Fターム(参考) 3H033 AA02 BB06 BB20 CC01 DD03

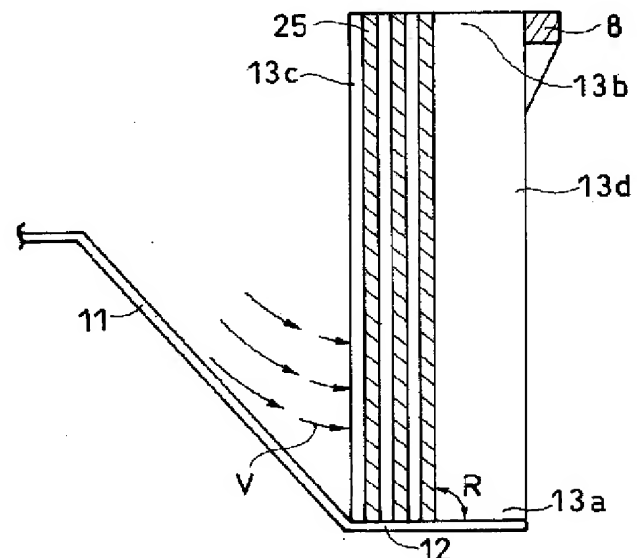
DD25 EE06 EE08 EE19

(54)【発明の名称】 遠心ファン

(57)【要約】

【課題】 騒音を低減できるとともに簡易な構成で且つ製造が容易な遠心ファンを提供する。

【解決手段】 本発明にかかる遠心ファンは、円周状に配置された多数の羽根13を備えるファン本体3と、ファン本体3を回転駆動するモータ7とを備え、ファン本体3の回転によりファン本体3の径内方向から径外方向に向けて空気を吹出すものであって、羽根13には、その回転方向における下流側の負圧面21に凸(または凹み)25、27が形成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 円周状に配置された多数の羽根を備えるファン本体と、ファン本体を回転駆動する駆動手段とを備え、ファン本体の回転によりファン本体の径内方向から径外方向に向けて空気を吹出す遠心ファンにおいて、前記羽根には、その回転方向における下流側の面に凸または凹みが形成されていることを特徴とする遠心ファン。

【請求項2】 前記凸または凹みは、ファン本体の径における内方から外方に沿って複数形成されていることを特徴とする請求項1に記載の遠心ファン。

【請求項3】 前記凸または凹みは、遠心ファンの軸線方向に沿って形成された複数の凸条または凹み条であることを特徴とする請求項1または2に記載の遠心ファン。

【請求項4】 前記凸または凹みは、散点されていることを特徴とする請求項1または2に記載の遠心ファン。

【請求項5】 前記隣合う凸または凹みにおいて、羽根の厚み方向の寸法が異なることを特徴とする請求項1〜4のいずれか一項に記載の遠心ファン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ブロワ、ターボファン、クロスフローファン等の遠心ファンに関する。

【0002】

【従来の技術】この種の従来の遠心ファンとして、特開平11-93893号公報には、遠心ファンの翼（羽根）間に長さの異なる翼を設けるとともに、翼間の出口角度を所定の角度に設定し、ファンの騒音を低減する技術が開示されている。また、特開平11-37096号公報には、ブロワのスクロールにおいて、吐出口近傍の広がり率を所定の率に設定することにより、送風効率を高める技術が開示されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上述した従来技術では、ファン騒音の低減が充分でないとともに、構成が複雑になり、製造し難いという課題がある。

【0004】特に、近年は、ファンにおける騒音低減の要求が高い。

【0005】一方、ファンでは、隣合う羽根間に空気が流れるが、回転方向における下流側の羽根面は、空気の流れにより負圧になり、空気流が翼負圧面（以下、単に「負圧面」とする）から剥離し、羽根間を流れる空気流れに変動が生じて騒音を生じると考えられる。これに対して、羽根間の間隔を狭くしたり、羽根の迎え角や入り口角を空気の流れ場に沿うような最適な値にすることが考えられるが、かかる最適値を見出すことは、困難である。

【0006】そこで、本発明の目的は、騒音を低減できるとともに簡易な構成で且つ製造が容易な遠心ファンを

提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するために、請求項1に記載の発明は、円周状に配置された多数の羽根を備えるファン本体と、ファン本体を回転駆動する駆動手段とを備え、ファン本体の回転によりファン本体の径内方向から径外方向に向けて空気を吹出す遠心ファンにおいて、前記羽根には、その回転方向における下流側の面に凸または凹みが形成されていることを特徴とするものである。

【0008】この請求項1に記載の発明では、駆動手段により、ファン本体が回転駆動されると、ファン本体では、径内方向から径外方向に空気が流れファン本体の外周に向けて空気を吹出す。このような空気の流れにおいて、隣合う羽根間に空気が流れるが、回転方向における上流側の羽根面は、翼正圧面（以下、単に「正圧面」とする）であり、空気の動圧を受け、回転方向における下流側の羽根面は、空気の流れにより負圧になる。このような負圧面では、空気流が負圧面から剥離しようとするが、負圧面に形成された凸または凹みにより、空気流れにじょう乱を与え、空気流れが負圧面から剥離するのを抑制する。このような空気流れの剥離を抑制することにより、剥離泡及び空気の流れ変動を低減し、羽根間に有効流路が確保されて、羽根における空気の出口における流速が平均化され、騒音が低減できる。また、負圧面における空気流の剥離を抑制するので、ファン効率が向上するとともに、圧力損失が低減し、更に、駆動トルクが低減できる。また、羽根の負圧面に凸または凹みを形成するだけであるから、構成が簡易であり且つ製造が容易である。

【0009】請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の発明において、前記凸または凹みは、ファン本体の径における内方から外方に沿って複数形成されていることを特徴とするものである。

【0010】この請求項2に記載の発明では、請求項1に記載の作用効果を奏するとともに、羽根間における空気流れ方向に凸または凹みを複数形成することにより、更に効果的に空気流れの剥離を抑制し、騒音の低減し、ファン効率の向上、圧力損失の低減及び駆動トルクの低減をより有効に図ることができる。

【0011】請求項3に記載の発明は、請求項1または2に記載の発明において、前記凸または凹みは、遠心ファンの軸線方向に沿って形成された複数の凸条または凹み条であることを特徴とするものである。

【0012】この請求項3に記載の発明では、請求項1または2に記載の作用効果を奏するとともに、凸条または凹み条とすることにより、ファンの製造時に容易に凸または凹みを形成でき、容易に製造できる。

【0013】請求項4に記載の発明は、請求項1または2に記載の発明において、前記凸または凹みは、散点さ

れていることを特徴とするものである。

【0014】この請求項4に記載の発明では、請求項1または2に記載の作用効果を奏するとともに、多数の凹凸を散点状に配置することによって、空気流の剥離を更に効果的に防止する。

【0015】請求項5に記載の発明は、請求項1～4のいずれかに記載の発明において、前記隣合う凸または凹みにおいて、羽根の厚み方向の寸法が異なることを特徴とするものである。

【0016】この請求項5に記載の発明では、請求項1～4のいずれかに記載の作用効果を奏するとともに、負圧面にじょう乱の形成を活発にし、空気流の剥離を更に効果的に防止する。

【0017】

【発明の実施の形態】以下に、添付図面を参照して、本発明の実施の形態を詳細に説明する。まず、図1乃至図4を参照して本発明の第1実施の形態を説明する。本発明の実施の形態にかかるブロワ（遠心ファン）1は、車両用空調装置に搭載されるものである。

【0018】ブロワ1は、図3及び図4に示すように、ファン本体3と、このファン本体3を収納するスクロール5とを備えており、モータ（駆動手段）7の駆動によりファン本体3が回転するようになっている。

【0019】スクロール5には、スクロール5の側壁にベルマウス15が形成されており、ベルマウス15から吸込まれた空気は、スクロール5の吐出口17から吐出される。ファン本体3は、略円筒形状であり、モータ7の回転軸に固着されるボス部9と、ボス部9から径の外方に延出するコーン部11と、コーン部11の外周縁部に立設する複数の羽根13を備えている。ベルマウス15側における羽根13の端部には、複数の羽根13を保持するリング状のリブ8が設けられている。

【0020】羽根13は、図1及び図2に示すように、ファン本体3の径方向に湾曲して形成されており、凸状の湾曲面を負圧面21とし、凹み状の湾曲面を正圧面23としている。負圧面21は、図2に矢印Aで示すファン本体3の回転方向における下流側の面であり、正圧面23は、回転方向における上流側の面である。

【0021】羽根13の負圧面21には、断面が半円形状の凸条25が形成されており、この凸条25（図1に斜線で示す）は、図1において下側に位置する下端（ハブ面12側）13aからベルマウス15側に位置する上端13bに向けて直線状に設けられている。このように、凸条25を形成するだけであるから、構成が簡易であり、しかも、ファン本体3を形成するときに金型により同時に一体成形が可能であるから、製造が容易である。

【0022】また、凸条25は、風の流れ方向における前縁13cから後縁13d側に至る幅方向において、前縁13c側から略中央付近まで、径方向に略等間隔で形

成されている。更に、凸条25は、ファン本体3の略中央から径方向外方に流れる風が通過するときの主要ベクトルVとの成す角度Rが略直角となるように形成しており、凸条25が風の抵抗になって、じょう乱を形成し易くしている。

【0023】次に、本実施の形態における作用を説明する。図2に示すように、モータ7の駆動によりファン本体3が矢印A方向に回転すると、ファン本体3は径方向内方から外方に向けて風を吹出し、スクロール5に案内されてスクロール5の吹出し口17から風を吹出す。

【0024】ファン本体3の回転により、隣合う羽根13、13間に風の流れが生じるが、図2に示すように、風の圧力を受ける正圧面23では、風Tが正圧面23に沿って流れる。一方、羽根13の負圧面21では、矢印Pで示すように、風が負圧面21から離れるようとするが、凸条25により、多数の渦nを生じさせ、じょう乱を起こす。このように、じょう乱が生じると風は矢印Sで示すように、負圧面21側に引き寄せられる（正圧に沿って流れる）ので、風Sの剥離が抑制され、騒音が低減される。

【0025】また、羽根13、13間における負圧面21の風の剥離を抑制するので、羽根間13、13における風の流れの変動が低減でき、羽根13、13間における有効流路が確保され、羽根13、13間における出口側（後端縁）における流速が平均化されるので、ファン効率が向上するとともに、ファンにおける圧力損失が低減でき、更にファンを回転駆動するためのトルクの低減が図れる。換言すれば、モータ7の消費電力が低減できる。

【0026】次に、本発明の他の実施の形態を説明するが、以下に説明する実施の形態では、上述した実施の形態と同一の作用を奏する部分には、同一の符号を付することによって、その部分の詳細な説明を省略し、上述した第1実施の形態と異なる点を主に説明する。図5に示す第2実施の形態は、羽根13に形成する負圧面21に形成する凸条を円弧中心mを基準とし、その円弧上に形成したものである。この第2実施の形態においても、上述した実施の形態と同様な効果を奏することができる。

【0027】図6に示す第3実施の形態では、羽根13の下端13aから上端13bにかけて半球条の凸部27は、前縁13cから後縁13d側に縦の列E1、E2、E3……を形成しており、各列E1、E2、E3……の凸部27が羽根13の弦長H方向においてずれた位置にある。また、凸部27は、羽根13の下端13aから上端13bに至る高さ方向における途中までの幅Wの領域に形成されている。この幅Wは、下端から羽根の幅全体の50～70%の領域が、実質的に風の流れが生じる領域であることから好ましい。多数の凸部27を散点状に配置することによって、空気流の剥離を更に効果的に防止する。

【0028】図7に示す第4実施の形態は、凸部27を格子状に配列した例を示したものである。この第4実施の形態では、羽根の前縁13cから後縁13dにかけて凸部27の高さhを列E1、E2、E3毎に次第に高くしたものである。この第4実施の形態においても上述した実施の形態と同様な効果を得ることができるとともに、負圧面21にじょう乱の形成を活発にし、空気流の剥離を更に効果的に防止する。

【0029】図8に示す第5実施の形態は、凸部27を行F1、F2、F3毎に高さhを小、大、小というよう

に変化させたものであり、上述した第4実施の形態と同様な効果を得ることができる。

【0030】尚、図7及び図8に示す実施の形態では、高さの変化をサイン(sin)カーブを形成するような高さに形成するものであってもよい。

【0031】図9に示す第6実施の形態では、羽根13、13間を流れる風のベクトルvに対して直交する方向に凸条25を形成するが、ベクトルvが羽根13に対して傾斜しているため、このベクトルに対応させて凸条25を傾斜させた例を示したものである。

【0032】図10に示す第7実施の形態では、羽根13に凸条25を形成するとともにコーン部11の表面にも凸部31を形成した例を示したものである。この第6実施の形態では、コーン部11を流れる風がコーン表面からの剥離を抑制し、コーン表面に沿って流すことができるので、羽根13の下端13a近傍における風の流れを確保することができ、風の流路確保を更に高めることができる。従って、ファン効率を向上させることができる。

【0033】発明は、上述した実施例に限定されず、本発明の要旨を逸脱しない範囲で種々変形可能である。

【0034】例えば、上述した実施の形態では、負圧面21に凸25、27を形成する例を説明したが、これに限らず、凹みであっても同様な効果を奏することができる。

【0035】また、遠心ファンとしてブロワ1を例に説明したが、これに限らず、ターボファンやラジアルファンであっても同様な効果を得ることができる。ここで、ターボファンとは、風の流れ方向における羽根の出口角（径の外方向において、羽根の延出方向における接線とファン本体の接線との成す角度）が90度よりも小さいものをいい、ラジアルファンとは出口角が90度のものをいう。尚、上述した実施の形態では、出口角Gが90度よりも大きいので一般に多翼ファンと呼ばれるものである。

【0036】

【発明の効果】請求項1に記載の発明によれば、隣合う羽根間に空気が流れると、回転方向の下流側の羽根面は、負圧面となり空気流が負圧面から剥離しようとするが、負圧面に形成された凸または凹みにより、空気流れ

にじょう乱が生じ、空気流れが負圧面から剥離するのを抑制し、騒音が低減できる。また、負圧面における空気流の剥離を抑制するので、ファン効率が向上するとともに、圧力損失が低減し、更に、駆動トルクが低減できる。

【0037】請求項2に記載の発明によれば、請求項1に記載の効果を奏するとともに、羽根間における空気流れ方向に凸または凹み複数を形成することにより、更に効果的に騒音を低減し、同じにファン効率の向上、圧力損失の低減及び駆動トルクの低減をより有効に図ることができる。

【0038】請求項3に記載の発明によれば、請求項1または2に記載の効果を奏するとともに、凸条または凹み条とすることにより、ファンの製造時に容易に凸または凹みを形成でき、製造が容易である。

【0039】請求項4に記載の発明によれば、請求項1または2に記載の効果を奏するとともに、こまかい凹凸を散点状に配置しているので、空気流の剥離を更に効果的に防止できる。

【0040】請求項5に記載の発明によれば、請求項1～4のいずれかに記載の効果を奏するとともに、凸または凹みにおいて羽根の厚み方向の寸法が異なっているので、羽根の負圧面にじょう乱の形成を活発にし、空気流の剥離を更に効果的に防止する。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施の形態にかかるファン本体の縦断面図である。

【図2】図1に示すファン本体の平面図である。

【図3】本実施の形態にかかるブロワの横断面図である。

【図4】図3に示すブロワの縦断面図である。

【図5】第2実施の形態にかかるファン本体の一部を示す平面図である。

【図6】第3実施の形態にかかるファン本体の一部を示す縦断面図である。

【図7】第4実施の形態にかかる羽根の図であり、

(a)は平面図であり、(b)は断面図である。

【図8】第5実施の形態にかかる羽根の図であり、

(a)は平面図であり、(b)は断面図である。

【図9】第6実施の形態にかかるファン本体の縦断面図である。

【図10】第7実施の形態にかかるファン本体の縦断面図である。

【符号の説明】

1 遠心ファン

3 ファン本体

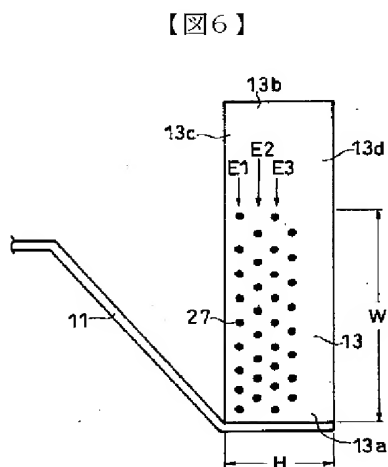
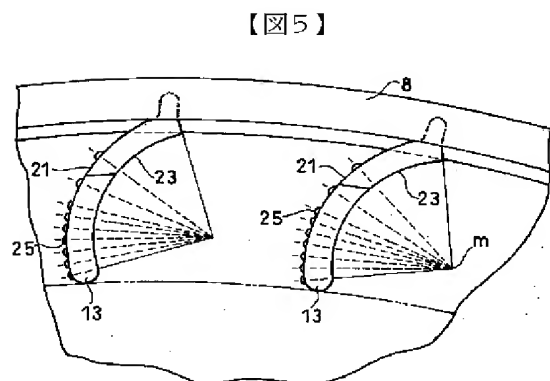
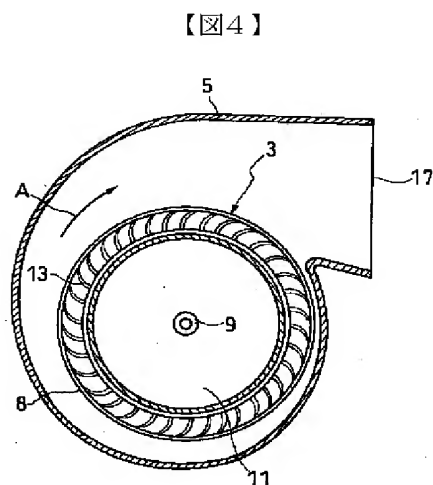
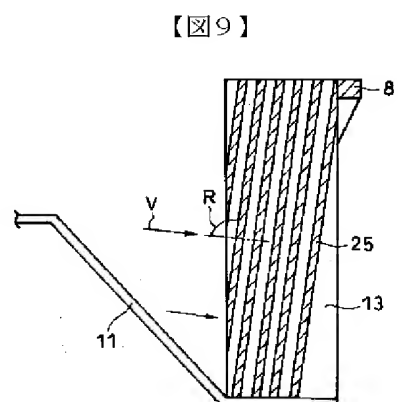
7 モータ（駆動手段）

13 羽根

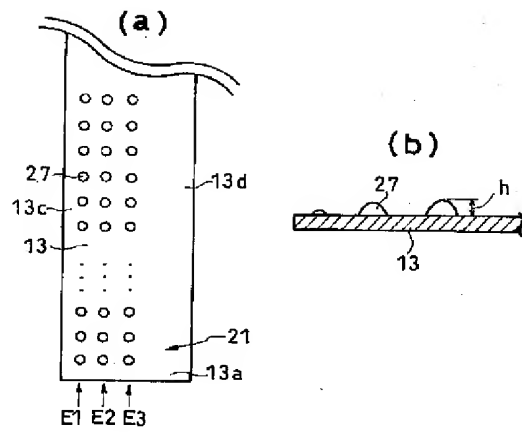
21 翼負圧面（下流側の面）

25 凸条（凸または凹み）

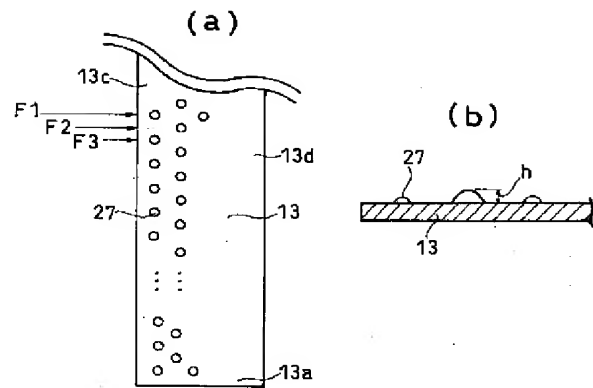
【図 1】



【図7】



【図8】



【図10】

